

# Guide & Tips

くまの自然歳時記 Vol.1

## ぶんぼう ミツバチの分蜂

オンツツジやミツバツツジが咲く5月初旬のこと、森林を背後にひかえた林縁で写真のような光景を目の当たりにした。これはミツバチの「分蜂(巣別れ)」といわれるもので、いわゆる引越である。過去に1度車窓からこの状況を目撃したことがあるが、一瞬であったため、あまり気にも留めなかった。

さて、この分蜂というミツバチの営み。春から夏にかけて、新しい働き蜂が次々と誕生する。同時に、新女王蜂も誕生する。そうすると1つの群れに1匹しか存在できない女王蜂は、半数ほどの働き蜂を引き連れて引越しをする。新しい棲み家を求めて出ていくのは旧女王蜂の方である。この巣別れともいわれる行為は比較的暖かく天気の良い日に行われる。

巣を飛び出した多くの蜂は、新しい棲み家が見つかるまで電柱や木の枝などに蜂球と呼ばれる集団の塊をつくる。閉鎖空間を好むミツバチは、開けた野外では一時的に塊を形成する習性がある。新居を探す



ミツバチの蜂球

のは働き蜂の役目で、家屋の床下や雨戸の戸袋、人為的に設置した巣箱などを見つける。棲み家が見つかったりやがて蜂球が崩壊し、集団は新居へと次々に移動していく。

ハチミツという贈り物をいただく私たちは、身近なところでこのような営みが行われていることにあまり気づかない。高度に組織化され、社会性昆虫の最高峰ともいえるミツバチの生活は、集団を維持し、種を存続させるために様々なふるまいをする。多くの生物が種の存続の危機にさらされている現在、このような小さな昆虫の営みにこそ目を向け、共に生活していく環境づくりをしていかなければならないと考える。

# 三重県立熊野古道センター

The Letter from Mie Prefectural Kumano Kodo Center からのてがみ

2022 夏 No.63

出 東  
土 紀  
品 州  
の



尾鷲市曾根町(平成28年)



曾根遺跡(尾鷲市)出土の深鉢

東紀州は古代の遺跡の数が少ないと言われていいます。それは本当でしょうか。実は遺跡が少ないのではなく、発掘調査件数が少ないためではないかと考えています。開発の手が伸びずあまり人の手が入らない土地や、昔からずっと人が暮らしたため遺跡の上に現代の人の暮らしがあったりする所もあります。それだけにかかわらず様々な理由で遺跡発掘調査を行ってこなかったのだと考えられます。

考古学は学問の性質上、「土の下から見つかった遺物」を研究対象としています。つまり、地面を掘らなければ研究対象が見つからないということです。開発が少ないことと併せて、東紀州で考古学の研究または発掘調査を行っている研究者が少ないということも原因の一つであるかもしれません。

かつて一度だけ熊野古道センターにおいて「熊野文化のはじまり〜縄文人がやってきた!?〜」と題して、三重県埋蔵文化財センターの協力のもと企画展を開催しました。平成21年のことです。縄文時代を中心に東紀州の考古遺物を集め解説・展示したものです。

今回当センターでは13年ぶりに「東紀州の出土品展」と題して、現在までに東紀州の各地で発掘・採集された考古遺物を集め展示します。もしかしたら見たことがある遺物もあるかもしれません。こんなのがこの辺にあったんだという発見があるかもしれません。

熊野古道が参詣道となる以前の東紀州をあらためて見つめ直し、大昔に思いをはせる機会にさせていただけたらと思います。



曾根遺跡調査(昭和30年)

## ひとりごと 川端守の

### NO.10 愚庵「巡礼日記」を歩く(その2)

#### ぎむゆうじ 義仲寺の愚庵

明治26(1893)年9月21日、京都清水の庵を出発した愚庵は、無動寺の坂を越えて大津に入る。伊勢を経て、三十三ヶ所を巡る93日間の旅の最初の宿は、琵琶湖畔の唐崎の松の下である。翌22日義仲寺を訪ねる。

天文22(1553)年、近江の国司であった佐々木高頼が石山寺参詣の途中、義仲の墓が淋しげな畑の中にポツンと立っているのを見て、その菩提を弔うために建立したのがこの寺である

という。伊賀とともに近江の地を深く愛した芭蕉は、大阪で発病、御堂筋の旅館花屋で客死するが、その折、自らの遺体を義仲寺に運び義仲の側に葬るよう遺言する。木曾殿と背中合わせに眠ることになるが、このことが義仲寺を有名な寺とする。芭蕉の絶句「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の句碑をはじめ、二十数句の



句碑が建ち並ぶが、これらのほとんどが芭蕉翁の爲のものであり、木曾義仲のために建てられたのは只一箇のみであるのを見て愚庵は「いと飽かぬ心地す」と不満を述べている。

木曾の最期は平家物語の中での武将たちの最期の中でも、最も哀切に満ちたものであり、琵琶湖畔の大津の繁華街のかたわらにたたずむ小さなお寺とともに、義仲とその人を慕った芭蕉の二つの生涯を思い浮かべてほしい。愚庵は芭蕉よりも義仲を慕ってこの寺を訪ねたのであろう。義仲、芭蕉、愚庵と並ぶ人たちの旅と生涯を思い浮かべて、この小庵にたたずんでいた日の私は、十数年前の旅人であった。

## お知らせ

旬のイベント情報をお伝えするLINE配信にぜひご登録ください。

LINE@

LINE ともだち募集中!

LINEアプリの友だちタブを開き、画面右上にある友だち追加ボタン>[QRコード]をタップして、リーダーでスキャンしてください。



公式Twitter、インスタグラム随時配信中! 企画展、イベント情報、センター周辺のちょっとした話題など、随時更新しています。ぜひご覧ください。



#### お車でお越しの方は...

尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルビオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分) ※尾鷲南ICからは約8分

#### 電車でお越しの方は...

JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車

## 熊野古道センターからのてがみ 2022年 夏号

- 発行日:2022年6月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:小島
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

ホームページ

https://www.kumanokodocenter.com/ 60000220610RK

# 旬の企画展



**企画展**  
**えのもとひさ展 吊す**  
 2022 **7/2土**・**9/4日**  
 ●会期中無休  
 時間 午前9時～午後5時  
 入場料 無料  
 場所 企画展示室

平成29年「4人のアーティスト展・熊野で出会う」で紹介したアーティストの1人・えのもとひさ氏の作品展を開催します。アートで世界中の人々がつながることを目指す活動にも取り組んでいて、この夏は「KUMANONISUMU(熊野に住む)2022」を開催予定。絵画・立体作品・展示空間を通して「えのもとひさ」の世界をご堪能頂けたら幸いです。

**付属イベント**  
**表現すること**  
**ドローイング**  
 2022 **7/23土**  
 時間 午後1時～3時  
 参加料 500円(材料費・資料代)  
 定員 20名(要申込・先着順)  
 対象 小学生以上  
 (小学3年生以下は保護者同伴)  
 場所 体験学習室  
 講師 えのもとひさ氏  
 受付 令和4年6月8日(水)～7月9日(土) 午後5時まで

**ロビー展**  
**熊野古道 撮影ツアー参加者作品展**  
 2022 **6/1水**・**6/30木**  
 ●会期中無休  
 時間 午前9時～午後5時  
 入場料 無料  
 場所 展示棟ロビー

写真家 山本まりこさんと行く



熊野古道を歩きその魅力を写真で表現する写真家山本まりこ氏を講師として迎え開催した撮影ツアーの参加者による作品展です。熊野古道伊勢路の馬越峠へと続く石畳道や、尾鷲市の飛び地として昔ながらの漁村の風景がこの須賀利町を舞台に撮影した風景写真をご紹介します。

**ロビー展**  
**道中日記にみる熊野古道伊勢路**  
 2022 **7/8金**・**8/31水**  
 ●会期中無休  
 時間 午前9時～午後5時  
 入場料 無料  
 場所 展示棟ロビー



当センター所蔵の道中日記を解説・解説し、江戸時代に巡礼者が熊野古道伊勢路を旅した様子をご紹介します。

**山歩き**  
**ステップアップ**  
**講座初開催!**  
 長閑山での歩行練習

ある程度山歩きに慣れた中級者の方に向けた「山歩きステップアップ講座」を開催しました。1日目は長距離やアップダウンの繰り返しも耐えられる歩行技術の他、火起こし・炊飯・山中での予期せぬケガへの対処法などを学びました。2日目の歩行練習はあいにくの天気でしたが、雨で濡れた石畳の安全

## スタッフコラム

な歩き方を学びながら三木里～二木島までを無事歩ききました!盛り沢山の2日間の連続講座は秋にも開催予定です。興味のある方は是非チャレンジしてみてください!



GWDリムフェスタ

3年ぶりに5月3日から5月5日までの日程で「GWDリムフェスタ」を開催しました。来場者数約5000名と多くの方に訪れていただきました。「リム」と銘打っておきながらあまり大規模なイベントではありませんでしたが、開催できたこと自体が「リム」だと思っています。ほんとうに久しぶりに多くの方々の笑顔に出会えることができて「リム」な出来事でした。今後もいろいろなイベントを開催していきますので是非ご参加ください。



子ども列車も走りました

**特別展示室企画展**  
**すぎおか 杉岡華邨 書の世界**  
 2022 **9/3土**・**11/13日**  
 ●会期中無休  
 時間 午前10時～午後5時  
 入場料 無料  
 場所 特別展示室



紀州が生んだ書道界の巨人、杉岡華邨。このたび、下北山村の杉岡華邨記念館より公開前の作品を借り受け、展示できることになりました。作品と併せて、書の道に入ったのは成人後と極めて遅い出発ながら、大成し、文化勲章を受けるまでとなった華邨の功績を紹介いたします。

**特別展示室企画展**  
**東紀州の出土品展**  
 2022 **6/18土**・**8/21日**  
 時間 午前10時～午後5時  
 入場料 無料  
 場所 特別展示室  
 ●会期中無休



展示風景-縄文(H21年度)

# イベント情報

体験学習

## 夏休み思い出づくり体験教室



バードコールは鳥を呼ぶ道具です。木片に金属のボルトをねじ込んで作ります。ボルトを回すと鳥の鳴き声のような音が出ます。

2022 **8/12金**  
 時間 ①午前10時30分～11時30分  
 ②午後1時30分～2時30分  
 参加料 200円  
 定員 ①10名/②10名  
 (要申込・応募多数の場合抽選)  
 場所 体験学習室  
 講師 熊野古道センター職員  
 受付 6月29日(水)～7月29日(金) 午後5時まで

バードコールづくり体験



銅鏡(青銅の鏡)づくりは、弥生時代からある古い技術です。今回の体験では、低い温度でとける金属を使って製作します。

2022 **8/13土**  
 時間 ①午前10時30分～11時30分  
 ②午後1時30分～2時30分  
 参加料 200円  
 定員 ①10名/②10名  
 (要申込・応募多数の場合抽選)  
 場所 体験学習室  
 講師 熊野古道センター職員  
 受付 6月29日(水)～7月29日(金) 午後5時まで

銅鏡づくり体験



ETOOTOTO(絵と音と) ライブの様子/2021年

交流イベント

### ETOOTOTO 夏の夕涼みらいぶ

涼やかな夏の宵にぴったりのプチライブを予定しています。どなた様もお気軽にお立ち寄りください。

2022 **8/20土**  
 時間 午後6時30分～7時30分  
 参加料 無料  
 定員 なし(申込不要)  
 場所 映像ホールまたは交流棟小ホール  
 出演 ETOOTOTOの皆さん

熊野古道自然学校

### 親子で親しむ川の生きもの

身近な川にすむ水生生物の観察を通して、川の水環境を知り、自然に恵まれた地域であることを実感しましょう。

2022 **8/27土** ●雨天の場合8月28日(日)  
 時間 午前9時30分～正午  
 参加料 500円(保険料・資料代)  
 定員 10組(要申込・応募多数の場合抽選)  
 対象 小学生と保護者  
 場所 矢ノ川(矢ノ川橋周辺)  
 講師 東邦光氏(熊野自然保護連絡協議会会員)  
 受付 7月13日(水)～8月13日(土) 午後5時まで



ハセ、エビトビケラなど

体験学習

東紀州の特産品や食材の魅力を少しでも知っていただくための料理教室を開催します。

### 東紀州の四季も味わう料理教室

2022 **9/11日**  
**だしを使った和食**  
 時間 午後1時～3時  
 参加料 2,000円  
 定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
 場所 体験学習室  
 受付 8月11日(木祝)～9月4日(日) 午後5時まで  
 講師 西岡宏起氏(相可高校食物調理科教諭)、相可高校調理クラブの皆さん

今回は食材に豊富な風味と味わいを生かしただしを使った美味しい和食を作ります。



道普請の様子

令和4年3月～5月中旬までの道普請参加団体(敬称略)

ファムツアー、田辺市熊野ツーリズムビューロー、一般財団法人さわかみ財団、熊野古道を歩く道普請のなかまたち、三菱電機株式会社冷熱システム製作所、富士古河E&C株式会社  
**参加費は無料** ●諸般の事情により、遅延または中止、日程及び内容を変更する場合がございます。

## 和歌山県 世界遺産センター からのお知らせ

お問合せ先 和歌山県世界遺産センター  
 住所 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1  
 TEL 0735-42-1044  
 FAX 0735-42-1560  
 E-mail e0624002@pref.wakayama.lg.jp

詳しくは当センターのウェブサイト

<https://www.sekaiisan-wakayama.jp> をご覧ください。またご不明な点がございましたら当センターへお問い合わせください。

爽やかな日差しが降り注ぐ初夏となりました。当センターでは、世界遺産の保全活動である「道普請」を実施しています。「道普請」とは、文化財専門職員の立会いのもと、企業や学校の方々などにご協力をいただき、企業のCSR活動や、世界遺産の理解と保全の意識を高めるための教育活動として、洗掘された古道に土を補充したり、側溝や横断溝の清掃をしたりする活動です。今年度もすでに多くの方々に心地よい汗を流していただきました(右記参加団体と写真参照)。また、世界遺産を次世代に継承するため、子供たち向けに世界遺産講座(座学)と現地学習を組み合わせた「次世代育成事業」も秋に実施する予定です。